

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)～(8)は必ず記入してください。(9)～(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1) 担当支部:	東九州支部	(2) 記載者氏名:	飯田 勝之	会員番号:	10912	事務局整理記入欄	東九州 - 17
分水嶺区分	K069水分峠～963mピーク:K068方向	(3) 山行日:	2004年	1月	23日	(4) 天候	雪:積雪20cm

(5) 参加者氏名および会員番号

サポート要員氏名および会員番号

西 孝子	8325			安部可人	会友		
飯田勝之	10912			石川洋祐	会友		
中野 稔	13997			得丸芳子	会友		
計				計			
3名				3名			

(6) 山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	国道210号線の水分峠から分水嶺稜線にとりつき、カルト山の肩に至る稜線踏査												
アプローチ:	国道210号線の水分峠に車を置き、踏査終了後はピストンしながら、途中から林道を峠へ下山												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)～(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	水分峠	湯平	131	17	41.3	33	14	58.4	711				
分水嶺到達点K069	水分峠	湯平	131	17	41.3	33	14	58.4	711		8:30		
分水嶺到達点	林道三叉路	日出生台	131	17	37.2	33	15	24.5	813	10:40	10:45	B-3	
	林道	日出生台	131	17	31.4	33	15	33.7	836	11:05		B-2	
	963mピーク	日出生台	131	17	31.0	33	15	42.2	965	11:40	12:13	B-2	
	(引き返す) 林道三叉路									12:45		B-3	
分水嶺離別点K069	水分峠												
歩行終了点	水分峠									13:05			
											総歩行時間(休憩時間を除く):	4時間00分	

(7) 三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを 記入してください	点名	等級	方位	保存 状況	特記事項
					この区間三角点はなし

(8) 人工施設の現況および地形図との相違点

地図の通りに林道あり。	分水嶺に近い林道三叉路には林業作業用のプレハブ小屋がある

(9) 水および植生に関連した特記事項

峠のとりにつきのカヤのブッシュ帯を過ぎれば、上部林道の手前までスギの人工林。	上部林道より上は落葉灌木二次林

(10) その他の特記事項

(11) 写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明:	963mピークにて

山行報告書(続き)

表面(1ページ目)に書ききれなかった事項を記入してください。

出発時の市街地は雨であったが、山に向かうにつれてみぞれから雪に変わり、水分峠は20cmの積雪である。
由布院あたりから雪で渋滞する国道をようやくの思いで峠の広場まで到着する。峠の駐車場で珍しい人々が見る中で、雨具にスパッツ、ザックカバーに手袋と、完全雪山装備の出発準備。予定より2時間遅れの踏査開始だ。
降りしきる雪の中を、国道210号線の峠の一番高い部分から稜線の斜面に取り付く。クヌギ林の中の深い雪とカヤを分けながら稜線を上る。稜線に出るとスギに造林地で、雪とガスで視界は数十メートルぐらい。幾度も方向を確認し、引き返したりしながら標高810mの林道の三叉路に出る。帰りはこの叉路から積雪20cmのラッセルで、20分で駐車場に着くことになる。
林道を横切りスギ林の急な斜面を、雪と間伐倒木とを相手に格闘しながら登っていく。登りきると灌木の天然林に変わる。
平らな稜線は方向確認が大変だ。次は標高890mの林道を横切り、963mのポイントを目指す。
11時40分頃963mの標高点に到着する。ここで昼食と相成るが、一面の雪景色の中で、展望はないものの、お湯割りの焼酎や、熱いお茶をすすりながら雪山談義となる。
カルト山の東方のピークまで行く予定だったが、遅れた出発、雪ではかどらないペース、メンバーの体調不良等で連帯感を優先し、ここでリターンと決まる。
往路を林道三叉路まで下り、あとは雪の積もった林道をラッセルしながら13時10分前に峠の駐車場に着く。



963mピークにて